連続ドラマ 作品タイトル

『マッチ売りの少女』

幸せな幻想、辛い現実、どちらを生きる？――
これは、近未来日本を舞台にした、
全く新しい、現代版「マッチ売りの少女」

〈企画概要〉

日本経済が崩壊、東京がディストピアと化した202×年、
新型の薬物、通称「マッチ」が現れた。

その煙を吸えば、
望んだ理想を夢の中で、
まるで現実のようにみることができる。

人体への害は、まったくない。
故にマッチは…史上最強の麻薬。

かつてマッチの売人、
通称「マッチ売りの少女」だった光は、
超法規的権限を与えられた警視庁麻薬捜査班に所属し、
大物マッチブローカー「アンデルセン」との死闘を、
今、繰り広げようとしていた。

企画のポイント

①現代のマッチ売りの少女は、夢を見ない

この物語の主人公・光は、現代に蘇ったマッチ売りの少女。
彼女は肉体の痛覚を持たない。故に、強い。
童話の物語のように、彼女は静かにマッチに火を灯し、夢の中で死ぬような事はしない。夢という幻想の中に逃げ込まず、地獄のような現実に身を投じて闘う。
そんな次世代の不屈の女性ヒーロー像を描く。

②マッチとは、人に望んだ夢を見せる薬

それは現実と見紛うようなリアルな夢。しかもマッチの成分は人体に何ら害がない。それ故、マッチは史上最強の麻薬として、世界中を瞬く間に席捲した。

マッチがもたらす唯一の副作用、それは人が自らの意思で、夢の世界に生きる事を望んでしまう事。

マッチは、「辛い現実と幸せな夢（幻想）、どちらを生きるのが幸せか？」という、究極の問いを内包する。

そんな架空の麻薬の存在を軸に、普遍的で重厚なテーマ、人間ドラマに、真正面から切り込む。

③現実と地続きの、近未来日本の世界観

物語の舞台は、経済が崩壊し、治安が急速に悪化、麻薬マッチが蔓延したもう一つの日本。

架空の世界だが、没落へ向かう現代日本と地続きな未来、現代に通じる問題を描くことで、今を生きる若者が目を離せない、骨太のエンターテインメントにすることが可能。

主要登場人物

光(12、23)
警視庁麻薬対策班　特別潜入捜査官
元麻薬マッチの売人　通称「マッチ売りの少女」。とある理由で肉体の痛覚を失った身寄りのない孤独な存在。痛覚がない事を活かした類まれな戦闘力を持ち、マッチの存在を憎み、この世界からマッチを撲滅させるために麻薬取締の為の潜入捜査官として、世界最大のマッチ密売組織、通称アンデルセンに潜入する。
マッチによる幻想(夢)の中で生きる事を、忌み嫌っている。

蒼(14・25)
光と共に幼い頃はマッチを売り捌いていた。光は初恋の相手。
光と生き別れた後に、マッチの世界的な密売組織「アンデルセン」に所属。
頭の回転が早く、組織内でも当確を表し、若くして幹部の地位に上り詰める。
成人後、「アンデルセン」に潜入してきた光と出会い、再び恋に落ちる。
幸せな幻想の中で生きることを、悪い事だとは思っていない。

中村紀子(50)
幼い頃の光と蒼、また他の身寄りのない子ども達の面倒を見る母親代わりの存在。しかし実態は、子どもたちをマッチの売人として働かせ、生活の糧を得ていた。警察の目を逃れるためなら、女子の体を男に売ることも辞さない。
マッチを頻繁に吸い、亡くした娘と息子のことを思い出している。

境田詩織(40・51)
警視庁麻薬捜査班所属。光の直辱の上司。アンデルセンを追う捜査班のリーダー。義憤に燃える性格。光が蒼や中村と別れた後、育ての親として光を引き取って支える。
光に警察官の道を示した大きな存在。光のたっての希望を受け、麻薬捜査班への配属をしぶしぶ承諾する。

ハンス(52)
麻薬組織「アンデルセン」のリーダー。麻薬マッチの開発者でもある。
本当は光の実の父親だが、マッチ規制のきっかけとなった集団自殺テロ事件の首謀者の一人と目され、光と生き別れてしまった過去がある。
その後、麻薬マッチの製造開発、販路拡大に取り組み、世界最大の麻薬密売組織「アンデルセン」を生み出す。

前田美咲(47)
国連麻薬取締事務局(UNDOC)の事務総長。実態はアンデルセン組織の活動を泳がせ、世界中の麻薬組織を席捲させた後、一気にその勢力を乗っ取って、マッチ利権獲得を狙う巨悪の存在。
過去に起こったマッチ集団自殺テロ事件とも関りがある。

マッチ売りの少女　全体構成

第１話：マッチ

2024年の日本。経済が崩壊し治安が急速に悪化した東京では、新型の麻薬、通称「マッチ」が蔓延していた。**マッチは人に望んだ夢を見せる、副作用のない薬物。**瞬く間にマッチは世界中に蔓延し、夢の中で生きるしかない人々を増殖させ、世界はその形を大きく変えていた。
主人公の光（12）はマッチ売りの少女として、麻薬マッチの密売で生計を立てる少女。身寄りのない複数の孤児を売人として囲い、一緒に暮らす中村紀子（50）というマッチブローカーの女を母親代わりに、貧しく厳しい暮らしを送る日々。物心ついた頃から、なぜか肉体の痛覚を持たない光は、痛みを知らない事で、周りの人間から孤立した存在だった。だが光に淡い想いを寄せ、心を通わせる蒼（14）や幼い兄弟たちの存在に、光はささやかな幸せを感じていた。
しかし、そんな暮らしを、台頭する新たな麻薬密売組織「アンデルセン」が脅かす。光達は組織の抗争に巻き込まれてしまう。蒼は光を守って命を落とし、母親代わりの中村も死ぬ。マッチに深い憎しみを抱いた光は警察の境田詩織（40）に保護される。それから11年後の2035年、光は警察の麻薬取締班に所属する潜入捜査官になって、マッチと闘っていた……。

第2話：再会

マッチ撲滅の為、捜査官になった光（23）は、ついにアンデルセンへの潜入に成功する。そこで光は、死んだと思っていた蒼（25）と再会を果たす。蒼は組織の一員となり、幹部にまでのし上がっていた。同時に蒼は、幼い頃とは別人に変わってしまっていた。人の痛みを顧みず、その冷徹さで恐れられ、光の事を覚えている素振りもない。蒼は過酷な仕事を新参者の光に与える。だが光は、その高い能力で仕事をこなし、徐々に組織内部に食い込んでいく。
組織から与えられたタワマンの住居。ある日、そこを訪れた蒼は光に、自分はもう昔の事は忘れ、違う人間になってしまった事、光を組織の中で、自分と同じような目に合わせたくないと思っている事を伝える。蒼は光のことを覚えていた。「だから俺はお前を認めない、俺とも二度と会わずに生きろ」。蒼の想いに心が揺れる光。
そんな折、光は警視上層部に、アンデルセンと通じている人物がいる事を知る。その内通者が、アンデルセン組織を守っていたのだ。正体がばれるリスクを冒しながら、何とか内通者の特定に成功した光は、おとり捜査を実行。大型の取引現場を抑え、内通者とアンデルセン幹部の逮捕に成功する。だがその過程で、光は逮捕寸前だった蒼をあえて逃がしていた。光も蒼を救いたかったのだ。
光の想いと裏腹に、逮捕された幹部に代わり、日本支部トップの座に抜擢される蒼。また境田は、自ら新たな警察の『内通者』となり、アンデルセン側と通じる危険な賭けにでる。
蒼に呼び出された光は、今回の取引失敗の陰に『裏切者』がいる事を伝えられ、自分の傍にいるつもりがあるなら、一緒に裏切者を探して欲しいと持ち掛けられる。

第3話：アンデルセン

蒼はアンデルセン日本支部のトップとして順調に成果を出していく。光も蒼の右腕として活躍。そうして蒼達は、以前から敵対していた日本市場最大のマッチ取引量を誇るヤクザ「山岡組」を完全に呑み込み始める。そんな中、光は蒼の計らいで、アンデルセン組織のトップ、ハンスとの接触に成功する。そこで光はマッチがなぜ生まれたのかを知る。マッチはかつて医師で脳腫瘍の研究者だったハンス自身が偶然開発した薬物だった。彼は脳の病に侵された自身の子供を救うため、薬の開発に従事し、マッチを生み出したという。マッチの夢を見る効果は予期しないものだったが、その効果故に、瞬く間にマッチは世界に普及していった。

蒼は山岡組のシマを完全に乗っ取る大規模な取引に着手する。内通者としてふるまう境田はその情報を入手、その機に乗じ、アンデルセンを壊滅させようと過去最大規模の摘発準備を進める。蒼と境田の間で揺れる光。そんな折、蒼は光に愛の告白をする。昔と同じように、これからもずっと傍にいてくれないかと迫る蒼。

かつて日本では、マッチ規制の発端にもなった、マッチを利用した大規模な爆破テロ事件が発生していた。その事件に巻き込まれ、両親を失っていた蒼。自分の両親を殺したマッチを売っていかざるを得なかった苦難の中、蒼は光と出会い、救われたと感じていた。彼の孤独と自身への想いを知った光は、ついに蒼と結ばれる。しかし何も感じる事がない自身の体に、逆に孤独を深めていく。

第4話：運命の取引

ついに山岡組との大規模な取引当日を迎える面々。だが実はその取引そのものが蒼の仕掛けた裏切り者をあぶり出すブラフだった。山岡組の幹部は警察に次々逮捕されるが、アンデルセンは無傷。全ては蒼が仕掛けた作戦通りの展開になる。

そして蒼はその過程で、光が裏切者だという、最も信じたくなかった可能性にたどり着いてしまう。蒼に拘束される光は、日本国内にあるアンデルセンの秘密のマッチ製造工場内で捕らわれる。蒼は裏切者の光を問い詰め、組織の為に殺そうと試みるができない。組織内の誰にも真実を伝えられず、一人葛藤する。

そんな折、光の体内深くに埋め込まれていた発信機の信号を頼りに、境田は光を救うためマッチ製造工場を機動隊員で急襲。アンデルセン国内最重要拠点の摘発に成功する。だがあと一歩の所で光を救えず、蒼と光、アンデルセンなど主要人物は工場を脱出し、警察の手を逃れる。

第5話：UNDOC（国際薬物犯罪事務所）

製造工場内にあった情報から、アンデルセン日本国内拠点を一斉摘発する、さらなる計画を上層部に申請する境田。彼女は一刻も早く光を救いたかった。アンデルセンの国内組織壊滅も現実のものとして見えてくる。だがその計画は、国連薬物犯罪事務所（UNDOC）の指示で突然凍結される。

上層部と掛け合う境田に明かされる真実。実はUNDOCはアンデルセンを長年に渡って世界中で泳がせていた。汚い仕事を彼らにやらせ、世界の麻薬市場を席捲させた跡、一気に彼らの力を奪い、管理

しようとしていたのだ。それはG２０が主導する、世界中でマッチを非合法化した後、その利益を独占する為の壮大な計画の一つ。日本警察は全く手を出せなくなってしまう。UNDOCの企みを知り、自分達の捜査がマッチ撲滅に繋がらない事で愕然とする境田。
そんな中、何とか光だけでも救おうと、単身、アンデルセン組織に接触した境田は逆に拘束されてしまう。境田は光を救うため、裏切り者は自分だと告白。同時にUNDOCの企みを蒼達に伝え、自分の利用価値を訴える。蒼は冷静に状況を判断し、これからUNDOC側の情報を入手するため境田を解放するが、境田はその動きを察知したUNDOC側の策略により殺害されてしまう。光は今の自分を形作った最大の恩人を失う。アンデルセン組織が境田を殺したと思い、蒼と激しく対立する光。

第6話：組織崩壊

UNDOCのアンデルセン組織乗っ取り計画が始動する。世界中の警察や公安組織から、一斉に攻撃を受けるアンデルセン。日本支部に身を潜めていたハンスを守るため、必死に抗う蒼。だが超法規的なUNDOCの摘発作戦を前に、次第に追い詰められていく。
その頃、境田の代わりに、潜入中の光を管轄する担当者として、UNDOC事務総長の前田美咲（47）が直接、光にコンタクトをとってくる。
前田はアンデルセンに殺された境田の弔いも兼ね、ハンスを直接逮捕する計画に光達捜査班を起用。光を主軸としたハンス逮捕作戦が立案される。
境田が殺された事で、高い士気の捜査班。だが、蒼からUNDOCの策略を聞いていた光は、前田に協力するふりをしながら、逆にUNDOC側の真意を探ろうと動く。アンデルセン組織への生死を問わない、容赦のない取り締まりに次第に前田との対立を深めていく光。一方、蒼は崩壊していく組織に悩みを深めていた。

第7話：抹殺命令

ハンスの逮捕計画の実行リーダーを務めることになる光。だが当初の計画に反し、作戦実行直前で「組織のメンバー全員を確保せずに抹殺せよ」との指示がUNDOCから下される。前田はUNDOCがアンデルセン組織を乗っ取り、権益を我が物にしようとする真実を知る面々を、皆殺しにしようとしていたのだ。その指示に抗う光。光は蒼に真相を打ち明けて協力し合い、逮捕作戦の最中、なんとか蒼とハンスを逃がす事に成功する。だが日本のアンデルセン組織は壊滅的な被害を受け、蒼はその半生をかけ築きあげたものを失う。
また光は、アンデルセンメンバーの抹殺命令を拒んだ境田が、黒幕である前田の策略で殺害された事実にたどり着き、何とかUNDOCの悪事を世間に暴こうと心に決める。
蒼もまた、残された全ての力を使い、自らとアンデルセンを追い詰めたUNDOCへの復讐を決意する。光は蒼と共闘し、前田の元へ二重スパイとしてもぐりこむ。
蒼は光に、「ただ幸せな夢を見たかっただけなのに、なぜこんな事になってしまうのか」と嘆く。今の全てが夢で、また昔に戻れたらいいと話す蒼に、何も答えられない光。

第８話：孤立

壊滅したアンデルセンのアジトに残った情報の分析から、ハンスはじめその残党が、マッチ追悼式会場の大規模爆破テロを計画していると、UNDOCが断定する。かつて世界中でマッチが麻薬として取り締まられるきっかけとなった、3000人以上の犠牲者をもたらしたマッチを使った集団自殺テロ事件。日本でのG20開催に合わせて予定されている、その追悼セレモニーが、ハンス達の最終目的だとUNDOCは分析する。

ハンスを、アンデルセン組織を壊滅させた世界への復讐を願う異常者だと結論づけた国連は、テロが実行されれば、追悼式典に参加する数万人の命が奪われる可能性を示唆し、あらゆる手段で危険を排除する事を決定。その決定に抗い、真相を探ろうとする光だが、光はついに前田の指示で捜査を外され、警察官の職も解かれてしまう。

実はハンス達は、追悼式典の場でUNDOCの悪事を世界に暴こうとしていた。その為にハンスは長年に渡って準備を重ねていたのだ。だが、その企みを察知した前田は、彼らをその場で抹殺し、大規模なテロを未然に防いだヒーローとして、逆にUNDOCの存在を世界中にアピール、利権独占の根拠を創ろうとしていた。各組織の思惑が交錯する中、ついに追悼式当日がやってくる。

第9話：裏切り

G20マッチ追悼式典会場に潜入した光と、ハンスと蒼を中心とするアンデルセンメンバー、彼らを抹殺しようとするUNDOCの面々の死闘が、イベントが進行する中で繰り広げられる。

その闘いの最中、一つの秘密が明らかになる。ハンスにはかつて脳の病に苦しむ一人娘がいた。彼女を救うために開発された薬がマッチ。そしてその娘は、脳に大量のマッチ成分を投薬された事で、病は根治したものの、マッチで夢見ることができなくなり、肉体の痛覚も失ってしまった。つまりハンスの生き別れた娘は、光だったのだ。驚愕の事実に動揺する光。闘いが続く中、事前にハンス達の計画を知っていた前田達UNDOCは、次第にアンデルセンの面々を追い詰めていく。

実はUNDOCは、前田の計画で追悼式会場ごと吹き飛ばせる量の爆薬を、会場内に設置していた。その爆発を未然に防いだヒーローに、自らがなる予定だったのだ。だが光の情報から、その可能性を事前に察知していた蒼は、UNDOCの裏をかき、混乱の最中、爆薬の起爆装置の入手に成功する。蒼は、UNDOCの悪事を明らかにすると共に、彼らがブラフのつもりで仕掛けた爆薬を実際に爆発させ、その罪もUNDOCに背負わせて、理不尽な世の中全てに対する復讐を果たそうとしたのだ。

前田には、かつての集団自殺テロ事件の計画を知りながら、それを意図的に泳がしていた過去があった。マッチを麻薬として取締り、利権を独占する為、テロ計画を黙殺していたのだ。蒼の両親の死にも前田は深く関わっていた。蒼の復讐行為を止めようとする光。だがそれを拒絶する蒼。

第10話：最後の夢

激化する追悼式典での闘い。ハンスの元の計画は、追悼を記念する聖火台に炎が点火された瞬間、場

内に仕掛けられた大量のマッチ成分が噴出し、UNDOC幹部と会場の数万人にマッチで夢を見せるというもの。その隙に、全世界に放映されるライブ中継映像をのっとり、UNDOCの過去の悪事を暴く配信をする段取りだった。だが蒼は、数万人が夢の世界に入った瞬間、会場ごと爆破しようとする。UNDOCの猛攻を防ぎながら、何とか蒼を止めようとする光。だが止められない。
闘いの最中、ハンスは光を守って瀕死の重傷を追う。ハンスは自身が生み出した夢を見れる薬が、人々を苦しめる事になってしまった事を悔やむ。自分は娘を救いたいだけだった。そんな中マッチが偶然生まれ、世界中に夢を与えられ、この世界をより良いものにできるチャンスだと自分は思った。だがそこから多くの争いが生まれ、こんな事になってしまってすまないと光に謝るハンス。
光は、死に行くハンスに語りかける。「私、やっとわかった。マッチが何のためにこの世に存在するか。それは人が殺し合いをするためでも、憎しみ合うためでも、現実から逃れる為でもない。マッチは、この世界に光りを灯す為にある。そうでしょ、父さん」
UNDOCの猛攻にさらされながら、光は蒼を止める為、一人銃弾飛び交う最中を突き進んでいく。痛みを感じない光の体は、普通ならとうに死んでしまう重傷を負いながら、真っすぐ前に進んでいく。ついに蒼と対峙する光。蒼はボロボロの光を見て、「やっぱり夢の方がましだ」と慟哭、一緒に楽になろうと爆弾を爆発させようとするが、それを止める光。光は蒼の全てを受け入れ、この先、何があっても一緒に現実を生きていこうと話す。
光はUNDOCを退け、元々のハンスの計画を始動させる。会場に一斉に噴出するマッチ成分。全員が夢を見る中、UNDOCの過去の悪事が世界中に配信されようとした瞬間、前田がその全てを隠蔽しようと、爆薬の起爆装置にスイッチを入れる。始まる爆発のカウントダウン。会場の全員が夢を見て動けない中、たった一人、マッチの抗体を持つ光だけが真っすぐ爆発物に向かい、起爆装置を止める。爆発は阻止されたのだった。
結局、世界中に明らかになるUNDOCの悪行。前田は全世界から糾弾され、マッチを合法化しろという声も世界中から沸き起こる。一方、事件の重要参考人として世界中に指名手配される光と蒼。

ーーとある世界の片隅。一人の貧しい女の子がマッチを売っている。その女の子はマッチで束の間の夢を見る。ふと夢から覚めた女の子に近づく人影、それは光。光はマッチでどんな夢を見たのか、女の子に尋ねる。「優しいママとパパと、温かいごはんを食べた」答える女の子に光は話す。
「一緒にその夢を叶えよう？」光は女の子と手を繋いで歩き出す。傍には蒼の姿もある。3人が向かう先には、光と蒼を迎える他の孤児たちが笑顔で手を振っている。　終

マッチ売りの少女　第一話

【登場人物】

光（１２・２３）：警視庁麻薬対策班　特別潜入捜査官
　元麻薬マッチの売人。
蒼（１４・２５）麻薬組織「アンデルセン」幹部。
　光とは同じ環境で育つ。

中村紀子（５０）：ふたりの育ての親。血縁関係はない。

境田詩織（４０・５１）：警視庁　麻薬対策班のリーダー。

ハンス（５２）：麻薬組織「アンデルセン」のリーダー。
　マッチ開発者。

前田美咲（４７）：国連薬物犯罪事務所（ＵＮＤＯＣ）事務総長

岡田警部（５０）：歌舞伎町警察著　警部

その他、警官、デモ隊等数名。

○テロップ「２０２４年　東京」

○新宿歌舞伎町（夜）

一面の雪が降る銀世界の中、ボロボロの格好でマッチを路上で売っている光（１２）。

荒廃した路地裏。

光「マッチはいりませんか……マッチはいりませんか……」

マッチ売りの少女として、マッチを売り歩く光。

光の声「２０２０年代初頭、この国の経済が完全に崩壊し、取り返しのつかない事態に皆がようやく気づいた頃。世界中に新型の薬物、通称マッチが突然現れた」

周囲の浮浪者達が、マッチを擦って、その煙を吸った人が恍惚の表情を浮かべてぼんやりしている。

光の声「マッチは、吸引した人が望んだ夢を、まるで現実のように見せてくれる。どんな

願いも、瞬時に夢でかなえてくれる薬物。
それは瞬く間に、コカインやマリファナをしのぐ存在となっていった……」
光からボロボロの紙幣でマッチを買う浮浪者の男。
光の声「なぜならマッチには、人体への害が全くなかったから。マッチとはまさに、人類が手にした夢の薬……そして、史上最高の麻薬」
光からマッチを買った浮浪者が、震える手でマッチをすり、吸引する。
と、後ろからパパ！と突然子供が抱きついてくる。
いつの間にか目前のゴミ山がリビングに変わり、食卓には湯気たつ食事とエプロン姿の女性。男の姿もスーツ姿に変わる。
笑顔で食事に手をつけようとする瞬間、子供がスプーンでパパを殴りはじめる。
パパ「痛いな、やめろって！」
笑顔で殴り続ける子供。

パパの額からは血が溢れ出す。
それでも笑い続けるパパ。
現実の世界では、マッチを吸う浮浪者を他の浮浪者達が、金品を奪おうと襲っている。
身ぐるみを剥がれながら、血まみれで笑っている男。
光の声「苦しい現実から目を背け、人々は夢の中に生きるようになり、世界は……急速に荒廃した」
雪で凍え、赤くかじかんだ手をさする光。
傍らには凍ったホームレスの死体が放置されている。
死体の目を、手で閉じようとする光。
固まっていて動かない。
光の後を静かにつけてきた二人組の若い男。一人が光に声をかける。
男１「どこの許可で、商売してる？」
男が光に詰め寄り、胸ぐらをつかんで壁に押しつける。

男１「こいつ女？」
服を剥ぎ取ろうとした瞬間、光の胸元からマッチの束が落ちる。
男２「（束を見て）おい、こいつ中村のババアんとこのだ……」
男１「（無視して）俺といい夢見ようぜ？」
光の顔をなでまわす男。押さえつけられながら、男の顔につばをはく光。
男１「こいつ！」
光に殴る蹴るの暴行を始める。
顔面を腫らし、口から血を流す光。
だが、痛みを感じないかのように、全く動じない。敵意を持った目で、男をにらみ続ける光。
男２「やめとけって、ババアが面倒だ……」
二人がもみ合う隙に、ゴミ山にあった割り箸を冷静につかむ光。
男１「バレねえよ、殺しちまえば」
光に抱きつき、突然動きを止める男。
光、男の目玉に割り箸を突き刺している。

男１「ぎゃー！」

絶叫し、のたうち回る男。

男２「！」

男２、バタフライナイフを取り出す。

何度か振り回す。

よけきれなかった刃先を手のひらでママ受け止める光。

刃は手のひらの中央を貫通。

だが全く動じない光。

手に刺さったままの刃を拳にして、男の顔面に振りかぶる光。

男の頬が裂かれ、吹き出る血。

男２「ひょ、ひょまえ、どうなって……（口から空気が漏れている）」

手のひらから無表情で刃を引き抜く光。

そのまま振りかぶって、男にナイフを投げつける。

男の太ももに突き刺さる刃。

男２「痛っ！」

警官の声「何してる！」

もみ合う様子を見かけた警官二人が、遠くから駆け寄ってくる。
逃げだそうとする光。だが目玉を刺された男１が光の足に抱きつく。
男１「許さねえ……」
バン！突如、鉄パイプが男の頭に振り下ろされる。気を失う男。
パイプを振り下ろしたのは、目の前に立つ蒼（１４）。
蒼「（光に）逃げるぞ！」
うなずく光。雪の上に転がったマッチの束を拾い、倒れた男の胸元から、金とマッチを奪って、走り始める。

○歌舞伎町・別の路地裏（夜）
警察に追われながら、路地裏を走る二人。
無線で緊急配備を要請する警官。
蒼「こっち……いや、こっち！」
子供しか通れない細い道を、蒼のナビゲートで縦横無尽に駆け回る二人。

周囲に響き始めるパトカーのサイレン。
蒼「（光の手をみて）またやった……ほんといい加減……わ！」
目の前に警官。
真横の非常階段を駆け上がる二人。
雑居ビルの屋上に出る。
狭い雑居ビル群を、ビルからビルへと飛び移りながら走る二人。
少し先の方から群衆の怒号が聞こえる。
走る二人の姿越しに、すさんで荒廃した新宿の全景。

○新宿大久保通り・路上（夜）
大群衆が垂れ幕やプラカードを持ってデモ行進を行っている。
多数の警官、機動隊が周囲を取り囲む。
群衆の声「夢に自由を！　夢に自由を！　マッチの違法化はやめろ！」
プラカードの一つに『規制はダメ絶対！』と書いてある。

群衆の声「ＵＮＤＯＣのいいなりはやめろ！」
群衆の声「国民から夢まで奪う気か！？」
興奮した人々が叫びながら歩く。
群衆に紛れ込んで警官達の目をすり抜けようとする光と蒼。
と、群衆の一組が、機動隊に突然、投石を始める。
周りの人々がその集団をともみ合う。
男の声「こいつら公安だ！」
かまわず石を投げる公安の一群。

○警視庁・移動指揮車内（夜）
モニターで様子を見ている警視庁の境田詩織（４０）の所にインカムで指示が入る。
部下の声「群衆から投石が、どうします？」
境田「……制圧して」

○同・新宿大久保通り・路上（夜）
ボンボンボン、連発する発射音。

催涙弾数十発が一斉に打ち込まれる。
広範囲で連続爆発する煙幕。
パニックで逃げまどうデモの群衆。
機動隊員、ガスマスクを装着し、警棒を持って群衆に割り込んでいく。
振りかぶる機動隊。
熾烈な暴力。制圧されていくデモ隊。
光と蒼、混乱に乗じて、隅のマンホールから地下に逃げ込んでいく。
路上に転がる『夢に自由を！』と書かれたプラカードに、飛び散る鮮血。
機動隊の足が、文字を踏みにじっていく。

○中村の家・地下の部屋・キッチン
ぐつぐつ煮える味噌汁に、手慣れた様子で刻んだネギを入れる中村紀子（５０）。
傍らでは、大量のから揚げを光が揚げている。
と、油が飛び散り光の手につく。
中村「やけど！」

中村、慌てて光の手を取り、水膨れに流しで水をかける。

光「……痛いって、どんな感じ？」

中村、棚の奥から絆創膏を取り出して、

中村「何度も言ったろ？　知らない方が幸せだよ」

火傷の後に貼り付ける中村。

中村「人生なんて、全部痛み」

光「……」

中村「痛くないのは、夢の中にいるときだけさ」

光「……」

中村「あんたは生まれながら夢ん中にいられる、幸せな娘だよ」

光の頭をくしゃっと激しくなでる中村。

光「……」

○同・リビング

食卓に料理を運ぶ中村と光。

その周囲に６〜７名の子供達が並ぶ。

中村「はい、席順！」
帳簿を見ながら、広いダイニングテーブルの席順を指定する中村。
中村「光、ダントツ。次は、蒼、まあまあ。次はカナ、それとハジメ……」
言われた順に席に座っていくボロボロの格好をした子供達。
中に光と蒼の姿もある。末席にいくほど、幼くなっていく。
中村「売り上げゼロは食う資格なし！　はい、みんな座って！」
席に着く面々。光や蒼など売り上げ上位の席には、ご飯に味噌汁、唐揚げなどがモリモリ並ぶ。
下位に行くほど品数が減り、売り上げゼロ子供の前には、小さなおにぎり一つ。
中村、胸元で手を合わせお祈りを始める。
中村「天にまします我らの神よ、御名をあがめさせまえ、御心が天にかなうごとく、我らに糧を与えたまえ。アーメン」

全員「アーメン！」

ガツガツ食べ始める子供達。

○同・中村の寝室

他の部屋に比べ豪華で快適そうな室内。

フォートナイトのコントローラーを持ち、

マッサージチェアで眠っている中村。

幸せそうに夢を見ている。

かたわらには、マッチの燃えかすがある。

寝ている中村に毛布をかける光。

蒼「そんな奴にも、やさしいんだな」

光「母親だから」

蒼「……俺たちを路上からさらった、誘拐犯の間違いだろ？」

光「……いなかったら、私は死んでた」

蒼「まあ、な……」

光「私、嫌いじゃないよ。今の暮らし」

蒼「嘘だろ……」

中村の寝言「……光……蒼……こっちおいで……（笑う）」

じっと中村を見つめる蒼。
小さいおむすびを二つに割って口に放る。
光にもその片割れを差し出す蒼。
光もおむすびを頬張る。

○同・リビング
光と蒼の分の食事を、他の幼い子供達がむさぼるように分け合い食べている。

○同・寝室
他の子供達が雑魚寝で寝ている中、二人だけ起きている光と蒼。
蒼、光の傷の手当をしている。体中青あざだらけの光。
優しく傷口のガーゼを取り替える。
光の手のひらの傷、化膿して膿んでいる。
蒼「いい？」
光、うなずく。
蒼、光の傷口に口をつけ膿みを吸い出す。
手元の布に膿みを吐き出す蒼。

蒼「猿の親子みたい？　俺ら」
笑う光。
手慣れた様子で傷口に消毒薬も塗る蒼。
蒼「いいよな、痛みを感じない体……」
光「そんな訳ない」
蒼「……」
光「……そんな訳ない」
うつむく光。
蒼、突然、光の頬に口づけする。
驚く光。
蒼「感じない？」
光「（怪訝な顔）」
蒼「確かめただけ！　お休み！」
布団に急にくるまり、向こうを向く蒼。
光「……またやったら殺す」
寝息を立て、聞こえないふりをする蒼。
蒼をにらみながら、少し表情を崩す。
×　×　×
幼い女の子を胸に抱きながら、眠っている光。

○歌舞伎町・雑居ビルの屋上（早朝）

靄が光る街を、屋上の縁に腰掛け、一人見ている光。

蒼がその横にやってくる。

視線の先の路上には、廃人のようにさまようホームレス達の姿。

蒼「ああは、なりたくないよな……」

光「？」

蒼「光は、やりたい事とか、夢とかないの？」

光「特にない……」

蒼「つまんないな、俺はあるよ」

光「？」

蒼「向こう」

遠くのタワーマンションを指す蒼。

蒼「あの最上階で、街を見下ろす金持ちになって……毎日、マッチを吸って、最高の夢ん中で暮らすの」

光「くだらない……」

蒼「光と一緒にね」

光「……（蒼を見る）」

蒼「その時は、一緒にいてくれるだろ？　俺と、兄弟たちと」

蒼、光の手を無理やりつかみ、指切りをする。

光「夢の中で暮らすなら、結局、あの人たちと同じ……」

指切りの手をほどく光。

眼下のホームレスたちを見る光。

蒼「全然違う」

光「……」

蒼「光は、痛みを感じないからな……」

光「……」

蒼「俺は、毎日痛いよ、死にそうなぐらい」

言い切った後、満面の笑みを浮かべ去っていく蒼。

光「……」

○中村の家・中村の寝室

部屋の奥。壁にかけられた十字架の真ん

中に鍵を差し込む中村。隠し扉が開く。
扉の奥には、五畳ほどの小部屋。
大量のマッチの山と現金がある。
マッチの束を並んだ子供達に渡していく
中村。

○地下道
地下道を通り抜け、マンホールから顔を
出し、街に散っていく子供達。

○歌舞伎町・路上
街行く人々にマッチを売る子供達。
路上を行きかう客が、さりげなくマッチ
を買っていく。

○中村の家・リビング
和気あいあいと楽しく食事をする光達。
中村も世話をやき、まるで本当の母親の
ようにふるまっている。
そんな中村を冷静な目で見ている蒼。

だが、中村が蒼を見ると、何事もなかったように無邪気な笑顔を見せる。

○歌舞伎町路上（日替わり）

マッチを売っている光。

そこに蒼が近づいてくる。

蒼「……変だ……」

光「？」

蒼「町の様子がおかしい」

周囲を見渡すと怪しい男性の人影が二人に近づいてくる。

無言で路地の方に早歩きで逃げる光。

蒼「マッチを！」

光が売っていたマッチの束を受け取る蒼。

つけてくる人影の死角になった瞬間、傍らのゴミ山に投げ捨てる。

と目の前の道路を立ちふさがるように数名の男たちが現れる。

男たち、突然光と蒼に掴みかかる。

光「！」

殴りかかろうとする光に目で合図し、抑
える蒼。
男たち、光と蒼の体をまさぐる。
男１「マッチはどこだ！」
蒼「知らない！」
男２「どこにもないぞ！」
男１「どこに隠した？」
蒼「いや！　襲われる！」
おおげさに叫んで騒ぐ蒼。
蒼「このおじさん達が、僕の体を！」
大泣きを始める蒼。
周囲の人々が怪訝な顔でみる。
男１「もういい、いけ！」
大泣きをやめない蒼。
男たちの姿が視界から消えた瞬間、ピタ
リと泣き止む。
蒼「警察だな……」
光「他の子が！」
光、慌てて助けに走り出そうとするが、
止める蒼。

○歌舞伎町・別の一角

身を寄せ合って歩く蒼と光。

通り過ぎる路地の奥で、仲間の子供たちが、同じ用に覆面の警官に囲まれ、マッチを取り上げられ、次々補導されている。

光と蒼を見つけ、助けを乞う子供達の視線。目をそらす蒼。

光「（小声で）助けないの！？」

蒼「……今は無理」

真っすぐ歩いていく二人。

○中村の家・リビング

鏡の前で、厚化粧をしている中村。

中村「あーいやんなっちゃうね……」

キツキツのスーツ姿の中村。

中村「こんな太ったかね……」

無理やりシャツをスカートに突っ込む。

その様子を奥から見ている光と蒼。

中村「光、今日は一緒に！」

驚く光。
傍らの蒼、黙ってなずく。
光の方に放り投げられる学校の制服。

○歌舞伎町・路上
スーツ姿の中村と、制服らしきブレザーを来た光の二人が、並んで路上を歩く。
違和感のある姿。

○警察署
正面入り口から入っていく中村と光。

○同・家庭生活課・少年係
奥の机には警部の岡田（５０）がいて、他の警官と話し込んでいる。
中村、カウンター前につくなり、その場で土下座。
中村「この度は私の子供達が、大変申し訳ございません！」
泣きながら、頭を何度も地面に擦りつけ

る。あっけにとられる光。
中村「（光に）ほら！　あんたも！」
無理やり土下座をさせられる光。
その様子をちらりと見る岡田。
境田も遠くの物陰から様子を見ている。

○同・取調室
境田から説明を受けている中村。
その横に岡田も座っている。
境田「あなたが育てている子供達５名を補導しました。マッチを売買していた為です」
中村「ええ……あの子たちなんでそんな……大変、大変申し訳ありません！」
再びその場で土下座をする中村。
境田「……」
中村「全部私のせいです……」
光「……」
中村「私が、ろくにお小遣いもあげなかったから。悪い奴にそそのかされて、密売なんて！　もう二度としないよう、全身全霊で

叱っておきます！」

境田「……」

中村「私、一人でも多くの子供を、身寄りのない環境から助けてあげようって、はい、私も同じ境遇でしたから……でも経営センスなくて……ダメですよね、器じゃないのに背伸びして……」

境田の手を取り、涙を浮かべる中村。

中村「この子も、ちゃんとみんなを指導します、ね、光！」

光に頭を下げるよう促す中村。

境田「……やめましょう、茶番」

中村「茶番？」

境田「あなたは子供を使ったブローカー」

中村「……」

境田「１８歳以下なら、補導ですみますし」

中村、急に声色が豹変する。

中村「（岡田をにらみ）この失礼な方は？」

境田「申し遅れました。私、麻薬取締特別捜査班の境田と申します」

中村「ああ、西村さんトコの」
境田「管理官をご存じなんですか？」
中村、じっと境田を見つめる。
にらみ合う二人。
境田「ご安心を、子供達はお返ししします」
中村「……」
境田「ただ、あなたに警告を」
中村「警告？」
境田「アンデルセン、ご存じですね？」
中村「……」
境田「新手の密売組織。全世界で急激に勢力が拡大、実態は不明。手段を問わないやり方で、既存市場を呑み込んでる。この町も」
中村「……」
境田「私は、マッチなんて麻薬で、人が傷ついて死ぬのが許せないだけ」
中村「……」
境田「あなたは、たくさんの子供を引き取り育てている。それは立派です。私は子供達に危害が及ぶのを避けたい」

中村「……で？」
境田「我々の目的は、アンデルセンの逮捕。
利害が一致すると思いませんか？」
中村「……ワン！」
突然、境田に向かって叫ぶ中村。
中村「犬になれってこと？（笑い始める）」
境田「……」
中村「あんた勘違いしてる」
境田「？」
中村「今日、警告しにきたのは、私の方」
そのまま席を立ち、去っていく中村。
慌てて跡を追う光。光を見る境田。

○同・警察署・入口
補導された子供達を引き連れて、堂々と
正面玄関から出ていく中村。
その姿を、二階からのぞいている境田。
中村、ふと境田の視線に気づき、真っす
ぐ目を合わせる。
胸に手をあてて深く一礼する中村。

颯爽と去っていく。

○伊勢丹デパート・レストラン街

着飾った人々の怪訝な顔。

ボロボロの服の子供達を引き連れた中村達の一行が闊歩している。

○同・レストラン内

豪華なお子様ランチを全員分頼み、大宴会をしている中村達の異様な姿。

最後の晩餐のように、左右に並ぶ子供達の中央に座る中村。

その眼だけが、笑っていない。

中村「（横に座る光に）あの境田って女、やっかいだよ」

光「？」

中村「あいつは、夢をみてる」

光「夢？」

中村「たまにいるのさ、現実でも夢を見ようとする奴が。そういう奴は大抵、何か変え

ようと、周囲をズタボロにする」
光「……」
中村「夢なんて、マッチで見りゃいい……あの馬鹿、どうにかしないとね……」
光「でも、警官だよ？」
中村「……光」
光「？」
中村「母さんと、家族の事、好きかい？」
光「（うなずく）」
中村「あんたにしかできない仕事、やって欲しいんだ（光の手を取る）」
光「……みんなの為なら」
中村「（満面の笑みを浮かべ）そうかい、光は本当にいい子だよ、有難う。有賀う……」
光を抱きしめ、涙を流して喜ぶ中村。
その様子を離れた所から、怪訝な顔で見つめる蒼。

○５つ星ホテル・スイートルーム
キングサイズの高級ベッドの隅に腰掛け

ている光。
別人のようにメイクや髪型を整え、高そうな洋服に身を包んでいる。
ふと、扉が開く。
スーツ姿の中年の男性（西村管理官）が部屋の中に入ってくる。
光を見て、笑顔を見せる男。
部屋の傍ら、本棚の陰に隠されたスマホカメラが、様子をこっそり写している。

○中村の部屋・リビング
ふかふかのソファに腰かけながら、スマホの画面を見ている中村。
中村「あぁ、あぁ（笑う）」
画面の中の光と男を見ている中村。
その中村の様子を、後ろの扉の陰から見ている蒼。

○中村の部屋・寝室
子供達が雑魚寝する中、一人帰ってきた

光が入ってくる。
その横に寝ている蒼、目を開く。
蒼に背を向け、静かに布団に包まる光。
蒼「……大丈夫か」
光「……何が？」
蒼「……」
光「何も感じないから」
蒼「……そんなわけない！」
無理やり光を振り向かせる蒼。
無表情な光。じっと目を見る蒼。
蒼「許せない、こんなの」
光「……」
蒼「俺が、あいつを殺してやる」
光「やめて」
蒼「なんで？」
光「私は、家族を守りたいだけ」
蒼「……こんなの家族じゃない！」
光「……」
蒼「今すぐ、俺とここを出よう」
光「弟と妹達は？　おいてくの？」

蒼「……」

光「それに、私たちだけでどうやって？」

蒼「俺がなんでもやる」

光「無理」

蒼「光に、最高の夢をみせてみせる」

光「……夢を見る奴は、何か変えようとして、周囲をズタボロにするって」

蒼「……」

光「私は、今で十分幸せ……」

幼い子供「おねえちゃん……」

一人、４歳ぐらいの子供が目を覚まし、甘えて光の布団に入ってくる。

女の子を抱きしめる光。

光の首筋は、きつく絞められた真っ赤な手の後がついている。

蒼、その跡を見て震え、拳を固く握りしめる。

○歌舞伎町・中華料理店・店の前（日替わり）

複数の警察車両が止まり、規制線が張ら

れている。
店舗に入っていく岡田と境田。
○同・中華料理店・店内
周囲には複数のチンピラの死体が転がっていて、鑑識が写真を撮っている。
床に散らばる札束と血痕。
壁にはマシンガンのようなもので撃たれた銃弾の跡が多数残っている。
岡田「まるで戦場だな……」
境田、床を見ると、横倒しになったスープの寸胴の中に、ビニール袋にぐるぐる巻きになったマッチの束が大量に詰まっている。
傍らの警官が状況を説明する。
警官1「（死体を見て）山岡組の構成員です。取引の現場を襲撃された模様」
岡田「どこの奴らが、そんなバカな事……（境田に）どう見る？」
境田、スープにまみれたマッチの束の上

に、一つだけ形状が違う物を見つける。
手に取りよく見る境田。
束を包む紙に「本当の夢を」と英語で書いてある。
境田「戦線布告……ですかね？」

○中村の家・中村の寝室・隠し部屋
十字架の金庫の中に山のようなマッチ。
その束を子供達に渡している中村。
後方に光と蒼もいる。
中村「さあ、商売商売！」
蒼「母さん、大丈夫なの？」
中村「何が？」
蒼「街じゃ噂で持ちきりだよ。アンデルセンって組織が、山岡組を襲ったって」
中村「だから、今がチャンスじゃないか！」
蒼「……」
中村「山岡の奴らが落ち込んでる隙に、どんどん稼ぐのさ」
蒼「……あの補導してき警官は？」

中村「もう心配いらないよ、あんたたちは夢を売っておいで！　そしたらマッチ売りの少女も夢に見るような、おいしいごはん作ってあげる！」

テンション高く、子供達を送り出す中村。

○蒼の見る夢（マッチの幻想）

タワーマンションの豪華なリビング。

小奇麗な格好をした弟、妹達を前にくつろぐ蒼。

ふと振り向くと、光がキッチンで作った料理を持ってくる。

笑って光に抱き着く蒼。

光「（笑って）痛いよ、蒼」

蒼「……痛い？」

光「そんな強く抱きしめたら……」

蒼「そっか……これも夢か……」

○地下道・隅

蒼、ふと気づくとマッチを吸った状態で

ぼんやり座っている。
おもむろに、もう一本マッチを擦ろうとする蒼。
と、その手がはたかれる。
光が真後ろに立っている。
光、蒼の前のマッチの燃え殻を見る。
光「ダメだよ……」
蒼「……なんで？」
光「夢から戻れなくなる！　みんなそう！」
蒼「別にそれでいい」
光、蒼の頬にビンタする。
蒼「……こんなんが現実なら、夢の中で生きた方が１００倍増しだろ！」
光「蒼には、ちゃんと生きててほしい」
蒼「……」
光「ちゃんと傍にいてほしい。現実に」
蒼「……」
光「だから、お願い」
蒼「光は、夢を見れないんだろ？」
光「……」

蒼「マッチが効かない体なんだろ？」
光「……だったら？」
蒼「だから、そんな事が言えるのさ」
光「……」
蒼「夢の中で、光、痛がってた」
光「……」
蒼「俺、なんか嬉しかった」
逃げるように立ち去る蒼。
その場から動けない光。

○警察署・会議室
岡田に呼び出されている境田。
境田「明後日で異動ですか？」
岡田「ああ、別の署に行ってもらう」
境田「……ずいぶん急ですね」
岡田「上の判断だ」
境田「あの、中村って女ですか？」
岡田「……何をバカなことを」
境田じっと岡田をにらむ。
岡田「そもそも、本庁からの腰掛けが現場に

いる必要はない」
境田、岡田の前に突然、書類をばらまく。
その書類には、岡田と中村の密会写真や、
何かを路上で受け渡しする様子の写真も。
岡田「なんだこれは……」
境田「私の所属する班には、前例のない権限
が与えられてます。あなたは当初からマー
クされてました」
岡田「……どういうことだ？」
境田「マッチ撲滅の為に、警察内部の汚職も
正す必要が」
岡田「ふざけるな！　俺は捜査のために！」
境田、突然目の前の椅子を蹴り上げる。
宙を舞う椅子が壁に激突。黙る岡田。
境田「あなたに残された選択肢は、このまま
汚職警官として逮捕されるか、捜査に協力
して酌量の余地を得るかの二つ」
岡田「……」
境田「考える必要あります？」
境田ににらまれる岡田の額に汗がにじむ。

○中村の家・リビング

食事が以前に比べて豪華になっている。

丸焼きのチキンを食べている子供達。

と、突然室内にクリスマスソングが流れ始める。

隣の部屋の奥から、サンタの恰好をした中村が大きな白い袋をもって出てくる。

中村「メリークリスマス！」

あっけにとられる子供達と光と蒼。

中村「皆さん、今日は何の日か知ってますか？　そう、神様の誕生をお祝いする日！」

白い袋を開けて、中からプレゼントの箱を複数取り出す中村。

子供達に配り始める。

目を輝かせて受け取る子供達。

光と蒼にはひときわ綺麗な箱が渡される。

中村「みんなの、稼ぎのおかげさ！」

競うようにプレゼント開ける子供達。素敵なおもちゃに興奮の声を上げる。

光、プレゼントを開けると、中には四つ
葉のクローバーを模したネックレスが。
中村「高級品だからね！」
手に取り、光の首に着ける中村。
中村「娘が大きくなったら、あげようと思っ
てたんだ。あんたのおかげで夢が……」
光「……」
じっとネックレスを触る光。
ドンドンドン！
突然、入口の扉を叩く音が響く。
緊張感が走る室内。
ドンドンドン！。
再び扉を叩く音。
監視モニターの映像を見る中村、そこに
は境田が一人立っている。
中村「……」

○中村の家・リビング
幼い子供達は奥の部屋に隠れている。
リビングに向かい合って座る境田と中村。

その横には光と蒼も立っている。
中村「どうしてここが？」
境田「食べても？」
中村「（うなずく）」
境田「（一口チキンをたべて）おいしい」
無言で顔を見合わせる光と蒼。
境田「端的にいうと、ここは危険です」
中村「？」
境田「あなたと警部がつながってることは明るみに。その上の人間とあなたがどういう関係かも」
中村「……」
境田「我々は内部の汚職を一層するために、全証拠をそろえています。あなたの証言があれば、より事がスムーズに」
中村「だから、私は犬になんか……」
境田「捜査の過程で、警部があなたを裏切り、アンデルセン側にあなたの情報を全てリークしたようです」
中村「どうして、そんな」

境田「自分がしたことを隠蔽する為でしょう。
あなたを消して」
中村「……」
境田「アンデルセン側はこのエリアを支配する為に、手段を選びません。警察も所轄のレベルでは残念ですが手に負えない」
中村「……」
境田「あなたと子供達に危険が迫ってます。今すぐ警察へ保護を申し出てください。そうすれば身の安全を保証します」
中村「証言と引き換えに？」
境田「ええ」
中村「……私にはね、子供が二人いたんだ。娘と息子。二人とも組織に殺された」
境田「……」
中村「その時も、警察が来て言ったのさ。私が証言すれば、守ってやるって、だから家族を守るために、私は証言したよ」
境田「……」
中村「突然、電話がかかってきたんだ。駅か

らね。子供が電車に轢かれたって。そんな路線、乗るわけないのに。二人仲良く並んでホームから飛び降りたって、それがすべて。警察はそれ以上何もしなかった」

境田「……」

中村「帰って頂戴」

じっとにらみ合う二人。

境田「……それでは、あなたを公務執行妨害で逮捕します」

境田、立ち上がると同時に、表に隠れていた警官数名が室内になだれ込む。

驚く中村と子供達。

中村「ふざけんじゃないよ……」

境田、胸元から捜査令状を出す。

境田「マッチ密売容疑の捜索令状です」

一斉に室内をひっくり返す警官たち。

中村、境田をにらみ、

中村「あんた、こんな事してタダで済むと……」

と、入口に目をやる。

黒ずくめの男が一人立っているのが見える。

中村「！」

男、マシンガンを取り出し、銃口を中村に向ける。

瞬間、光が中村に体当たりして倒れ込む。

振り返いて気づいた境田も、身を伏せる。

瞬間、火花を吹く銃口。

一気に数十発の弾丸が撃ち込まれる。

入口の方に立つ警官数名が銃弾をもろに受け吹き飛ぶ。泣き叫ぶ子供達。

身を挺して幼い子供をかばう蒼。

境田、銃を取り出し、黒づくめの男に応戦。

負傷した警官数名も同じように応戦する。

が、マシンガンを手に冷静に一人ずつ打ち抜いていく黒づくめの男。

子供達を家の奥に誘導し、隠す蒼。

光の傍ら、中村は腹を撃たれている。

光「！」

中村「ちくしょう、痛いっ！」
中村の腹の出血を必死に押さえる光。
境田は負傷した中村と光を連れ、応戦しながら家の奥に逃げていく。
逃げながら無線で話す境田。
境田「大至急応援を！　銃撃を受けてる！」
無線の声「重装備の機動隊は、１０分はかかります！」
境田「１０分……」
負傷しながらも、必死に応戦する生き残った警官達。だが圧倒的な差で、一人、また一人と撃たれていく。
ついに静かになる室内。
マシンガンを構え、部屋の奥に侵入してくる黒づくめの男。

○同・十字架奥の隠し部屋
大量の金とマッチが積まれた隠し部屋に息を潜めて隠れる光、蒼、中村と子供達。
境田一人が銃を構えて扉の隙間から室内

を見ている。
蒼、傍らに山のように積まれたマッチの束を見て、光の耳元で何かを話す。
光、蒼を見てうなずく。

○同・リビング
黒づくめの男がベッドや棚をひっくり返し、誰かいないか確かめる。
床の血痕が、十字架の下の壁面にまで続いているのを見つける。
黒づくめの男、マシンガンに弾を装填し、十字架のある壁に向かって銃を乱射。
数百発近くを撃ちこみ、隠し扉も崩壊。
もうもうと立ち込める噴煙。
黒づくめの男、ボロボロの壁ごと扉を蹴り上げると、隠し部屋の中が露わになる。

○同・隠し部屋
中に入ってくる男。
だが、そこには誰もいない。

男、床に散らばる紙幣を足で踏みならすと、丸く穴の空いた地下へと続く通路を見つける。

○同・地下通路内

子供達が必死に小さなトンネルを走って逃げている。子供達に肩を借り、這うように逃げている中村。

○同・隠し部屋

地下通路を覗き込み、中に入ろうとしている黒づくめの男。と、隠し部屋の隅に隠れていた境田が、男を銃で撃つ。数発の弾が命中。だが防弾チョッキの繊維にはじかれる。黒づくめの男、マシンガンを境田に向ける。

境田、すんでの所で体当たりし、銃口を掴んでそらす。手のひらが熱で焼ける音。ついに膝を至近距離で撃ち抜かれる境田。

絶叫。

次の瞬間、男にとびかかる蒼。
光もとびかかる。
蒼「いまだ！」
大きく息を吸い、呼吸を止める蒼。
光、手の平で燃やしたマッチの束を、素手で男の顔面に殴るようにぶつける。
マッチの煙が男の顔面を覆う。
銃を持つ手がぶらりと垂れ下がる男。
境田、防弾チョッキにできた銃創に直接銃を突っ込み銃弾を放つ。
そのまま、その場に倒れる男。
激しい息をつき、膝をつく蒼、光、境田。
蒼「やったな」
光、うなずく。
と、リビングから物音。
光と蒼がのぞくと、今倒したばかりの黒づくめの男と同じ重装備の男３名が室内を探索している。
絶望的な顔になる蒼と光。
蒼「……」

突然、光の頬に口づけする蒼。

光「……」

蒼、光に笑いかけ、

蒼「向こうにタワマンみえるだろ？」

光「何いって……」

蒼「いつか必ず連れてくよ」

蒼、一本マッチを取り出し、自分の目の前で火をつける。

その煙を吸引する蒼。

と、重装備の男たちの向こうに、高級マンションのエントランスが見える。

エントランスの中では、笑顔の光が手を振っている。

次の瞬間、重装備の男達の方に飛び出していく蒼。

おとりになろうとしたのだ。

光「蒼！」

蒼を狙い、マシンガンが火を噴く。

蒼、夢の中では、光に向かって、笑顔で走っていく。

顔をかすめる銃弾。
切り裂かれる頬。
笑顔のまま進み続ける蒼。
光「蒼！」
境田、叫ぶ光を無理やり地下道に引っ張っていく。
光「やめて！」
地下道の中に逃げ込んでいく境田と光。
境田、ポケットからライターを取り出し、火をつけたまま隠し部屋の中に投げ込む。と、大量のマッチの束に引火。瞬くままに隠し部屋が炎に包まれていく。
光「蒼！　蒼！」
燃え盛る炎に叫ぶ光。

○同・地下道
倒れ込んでいる中村。周りを子供達が取り囲む。中村の腹部にはどす黒い血。
息も絶え絶えになっている。
傍らにいる光。

中村「お願い、誰かマッチを」
光「……」
中村「マッチを……」
光、子供達の一人が差し出すマッチに火をつけ、中村に嗅がせる。
その顔がパッと明るくなる。
中村「なんだ、そこにいたのかい」
光「……」
中村「ほら、きっと似合うよ……」
ネックレスをつける仕草を見せる中村。
中村を見て、ポケットの奥からプレゼントでもらったネックレスを取り出す光。
中村「これは、私が母さんからもらった形見なんだ。これを娘に、いつか……」
そのまま呼吸を止める中村。
じっと中村を見つめる光。
そんな光を見る境田。
警官や救急隊が到着して、次第に周囲を取り囲んでいく。
光、ポケットの中に残っていたマッチの

束を取りだし、そのまま握りつぶす。
地面に残骸を叩きつけ、何度も殴る。
拳から溢れ出す血も意に介さず、マッチを何度も叩き続ける。

○テロップ「２０３５年　東京」

○歌舞伎町路上
マッチを売る幼い少女が雪の中を歩く。
少女「マッチ、いりませんか？　マッチいりませんか？」
と、傍らの浮浪者が少女を襲い、マッチを奪おうとする。
少女「キャ！」
瞬間、光（２３）が現れ、浮浪者の胸倉をつかみ投げ飛ばす。
慌てて逃げていく浮浪者。
倒れている少女を助け起こす光。
光「マッチ、全部頂戴」
万札を手に、喜んで走り去る少女。

光、マッチの束を手のひらに乗せ、火をつける。手のひらでアッという間に炎に包まれるマッチ。

別の浮浪者「……熱くないのかい？」

手のひらで燃えるマッチの残り香に群がろうとする浮浪者たちを後目に、手のひらでマッチを握りつぶす光。

そのまま雪の降る道を歩いていく。

○移動指揮車・車内

複数のモニターに多数の機動隊員がスタンバイする様子が映っている。

上空のドローン監視映像も映る。

モニターを見て指揮しているのは境田。

杖をつきながら仁王立ちしている。

無線の声「境田管理官、スタンバイ完了しました」

境田「了解」

警視総監の声「境田君、これだけ税金を投下したんだ。空振りではすまないよ」

境田「……」

○歌舞伎町・クラブ・ＶＩＰルーム

開店前のクラブ。

客はおらず、静まり返っている。

光が一人、ＶＩＰルーム内に入っていく。

山岡組の若手の面々が光に頭を下げる。

光の前に差し出されるアタッシュケース。

中を開くと金塊の山。

警視総監の声「取引は、本当に行われるんだろうね？」

境田の声「はい、もっとも優秀な潜入捜査官からの、情報ですから」

金塊をじっと見つめる光。

○同・クラブ入口

バン！　とクラブの入り口が開き、１０数名の黒づくめの男たちが颯爽と入ってくる。

中央に、ラフな格好のひときわ若い男。

頬には銃創のような大きな傷。
それは成長した蒼（２５）。
光の耳の中に埋め込まれた通信機から、
境田の声が流れる。
境田「頼んだわよ、光」
入ってきた男達の方に向かっていく光。

第一話　終